



JA 全青協

全国農協青年組織 協議会

全国農協青年組織協議会ってどういう組織？



全国農協青年組織協議会（略称：JA全青協）は、46都道府県のJA青年組織を会員として、JAをよりどころとして豊かな地域社会を築くことを目的に、昭和29年（1954年）に設立された全国組織です。

概ね20歳から45歳までの、日本の農業を担う青年層が中心となっており、**全国に約5万人の構成員（盟友）**がいます。

JA青年組織綱領（裏表紙参照）に基づき、わが国の国民に対して**責任ある農業者**として、国民との相互理解に基づく**政策提言**や**地域リーダーの育成**、**関連団体との連携等**の活動を行っています。



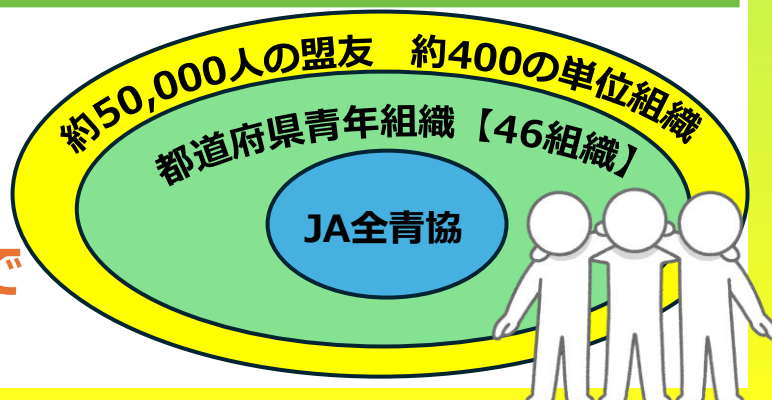
全国のJA青年組織はどのくらいの規模で活動しているの？



全国各地には**約400のJA青年組織**（単位組織）があり、各組織が県域の都道府県青年組織協議会に加盟しています。また、全国が6つのブロック（北海道・東北、関東・甲信越、東海・北陸、近畿、中国・四国、九州・沖縄）に区分けされており、各ブロック・組織ごとに、地域一体となった特色ある活動が行われています。



**私たちは地域農業を
盛り上げるために
約5万人の盟友と全国で
活動をしています！**

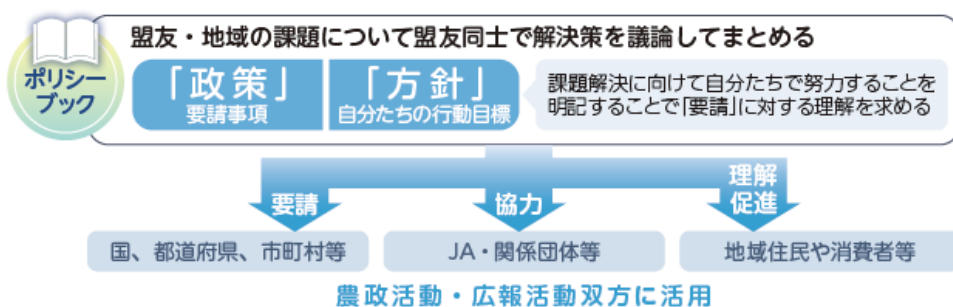


- ・ 学習と自己のスキルアップ
- ・ 政策提言、議員や行政との意見交換

■ ポリシーブックとは

JA全青協では、平成23年度より「ポリシーブック」の作成を開始しました。ポリシーブックを一言で表すと「JA青年部の政策・方針集」となりますが、その作成にあたっては現在の政策を出発点とするのではなく、JA青年部の盟友一人ひとりが営農や地域活動をしていく上で抱えている課題や疑問点について、盟友同士で解決策を検討してとりまとめている点が特徴です。

また、そこには政策として要請することだけでなく、まず自分たちで解決に向けて努力し、取り組むことが明記されています。つまり、「自分たちの行動目標」と「積み上げによる政策提案」の両方を備えたものがJA青年部の「ポリシーブック」です。



右のQRコードより最新版の
JA全青協ポリシーブックをご覧ください。
URL : <https://www.ja-youth.jp/policybook/>



■ ポリシーブックを用いた政策提言

食料・農業・地域社会を取り巻く状況が日々変わる中、農業経営に大きく関わる課題について、われわれ農業者の思いを対話を通じて伝えていくという、議員・行政への働きかけによる農政運動の取り組みがより重要となります。

農業者の立場から農業政策について自らの考えを持ち、全国の現場の声を積み上げ、その政策を支持する議員を応援していくことが、長期的な視点で農業政策に自分たちの意見を反映させ、かつ安定した制度を築くために必要な取り組みと考えています。



【組織だからこそ】
現場を伝える1人の声より、
大多数の声が持つ説得力

5万人の声を集約しているからこそ、
最終的に要件の変更を求めることができた。

ポリシーブックは組織の声の結晶！

- ・ 学習と自己のスキルアップ
- ・ 政策提言、議員や行政との意見交換

■ JA全青協ポリシーブックの改訂・活用

JA全青協ポリシーブックの改訂にあたっては、都道府県青年組織の委員長・会長が集まって重点項目の政策提言について協議する「作物別・課題別部会（年4回）」での検討結果および、県域組織からの改訂意見を基に、各ブロックから選出されたポリシーブック委員が内容の改訂検討を行う「ポリシーブック委員会（年9回）」を実施しています。

「作物別・課題別部会（年4回）」

たとえば、青果部会では「農薬の再評価制度」をテーマに...

① 背景

改正農薬取締法にて既登録農薬の有効成分の再評価制度が導入され、優先度順に審査が行われているが、導入当初に想定されたスケジュールよりも審査が大幅に遅延している。

原則、再評価の期間中は当該成分を含む農薬の変更登録審査の開始が見送られるため、農薬の適用拡大や混合剤開発の遅延等につながる懸念がある。

② 協議の内容

以下の2点を中心に協議を行い、農薬再評価制度にかかる審査の迅速化について要望することとした。

- ① 緊急的な予防・防除が必要な病害虫が発生した際には、有効な農薬の現場への速やかな導入が求められる。
- ② 従来使用していた農薬が廃止もしくは負の適用拡大により使用できなくなり、他の剤・適用の内容では対応できない場合には、防除体系を維持するために新たな農薬（適用拡大を含む）での対応が必要となる。

⇒**防除体系の維持への懸念！！**

③ 国会議員・農林水産省等への要望

農薬再評価制度にかかる審査の迅速化について

- (1) 審査の過程の中で、遅延の要因となっている委員会・部会などの検証・改善を行い、農薬再評価制度にかかる審査の迅速化を要望する。
- (2) 審査の完了前であっても、適用拡大等の必要な要望を受けた時は柔軟な対応が出来るようにすることを要望する。

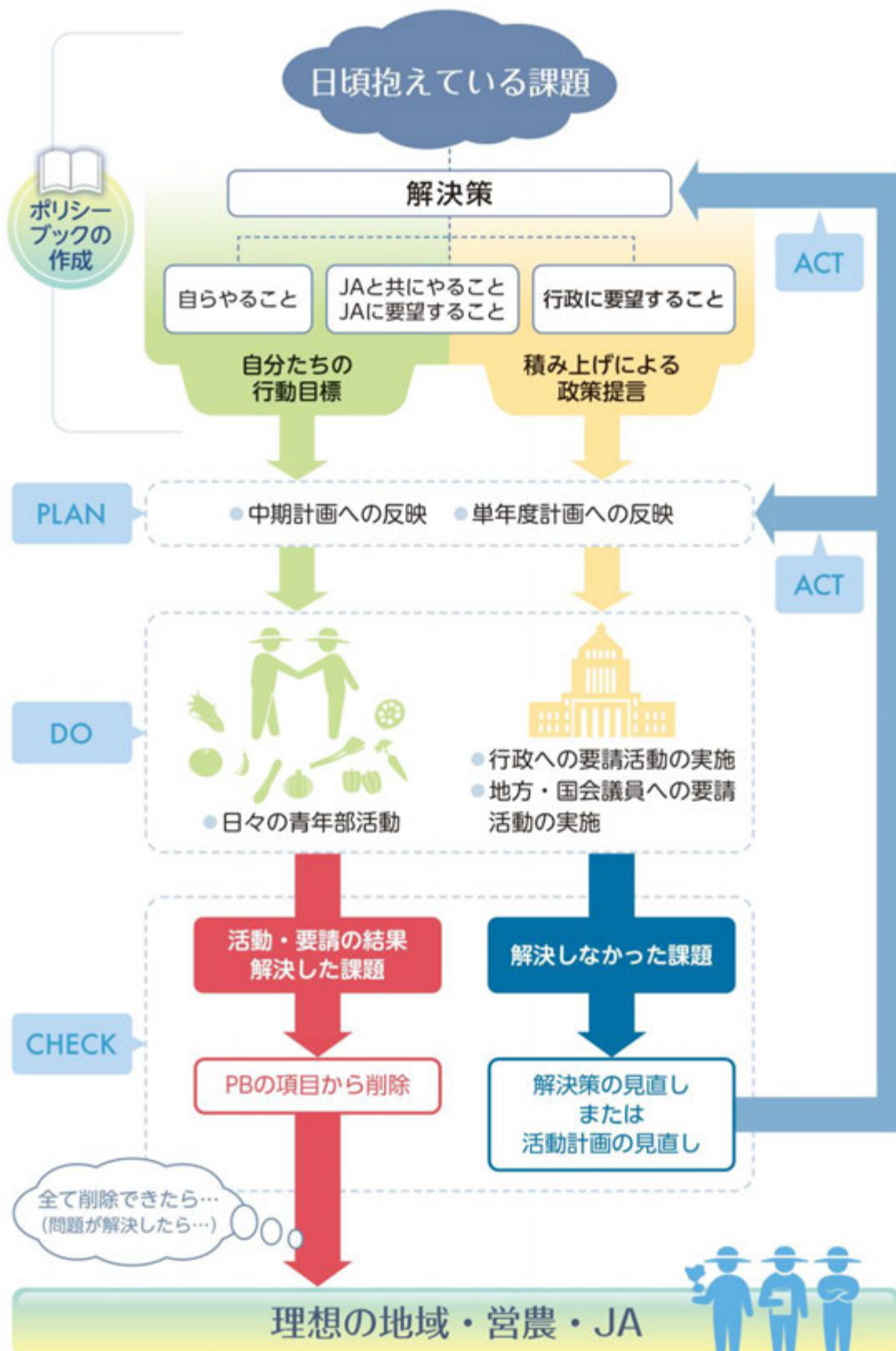
④ 成果

食料・農業・農村基本計画に対応が明記！！

2018年の「農薬取締法」（昭和23年法律第82号）改正に伴い導入した農薬の再評価制度により、全ての農薬について最新の科学的知見に基づく**再評価を円滑に実施する**とともに、農薬登録制度の国際調和を一層推進し、必要に応じ評価手法の見直しに取り組む。さらに、防除ニーズに対応するため、優先審査の仕組み等を活用し、新規農薬について速やかに上市できるような取組を推進する。

- ・ 学習と自己のスキルアップ
- ・ 政策提言、議員や行政との意見交換

■ ポリシーブック取り組みの流れ



- ・ 盟友の成長に向けて
- ・ 政策背景の理解醸成
- ・ JA経営を担う次世代組合員のリーダーの育成

1 JA全青協Webセミナー

全国盟友の取り組み事例や、農業政策の決定背景・内容・運用についてなど、盟友の学習・農業政策への理解醸成につながるWebセミナーを毎月1回開催しています。

盟友の幅広い学習機会の提供のため、盟友であれば誰でもご参加いただけます！

これまでのWEBセミナーのテーマ

- 食料・農業・農村基本法の改正
- 消費税およびインボイス制度の概要と農業への影響
- 農作業事故の未然防止に向けた取り組み
- バイオスティミュラントの基礎
- 食料システム法と米のコスト指標について etc..



上記のQRコードの全青協facebookにて毎月WEBセミナーのご案内を掲示しています。

2 海外研修（農協運動におけるJA青年組織人材育成研修）

青年農業者のリーダー育成に向けて、海外の農業情勢や協同組合について学ぶ研修を毎年開催しています！令和7年度はスペインのモンドラゴン協同組合での講義やチャコリ（伝統的発泡ワイン）農家への訪問、イタリアではアグリツーリズモ施設の視察・滞在、イタリア国立農業研究機構（CREA）、イタリア農業連盟（CIA）、および青年組織のAGIAとの講義・意見交換を実施しました。

モンドラゴン協同組合



イタリアでの講義・意見交換



- ・ 盟友の成長に向けて
- ・ 政策背景の理解醸成
- ・ JA経営を担う次世代組合員のリーダーの育成

3 青年理事・組織リーダー経営セミナー

将来のJA経営を担う次世代組合員のリーダーの育成を目的として、全国の盟友を対象に、JA青年組織出身のJA役員からの講演や、外部有識者の知見・経験を学ぶため、JAや農業政策への理解を深めることができる内容にて毎年開催しています。

これまでの経営セミナーのテーマ

- JA全中会長訓話「農業・JAグループをめぐる情勢と青年組織への期待」
- 農協法概論 ～総代・役員の役割について～
- データを活用し稼ぐ農業経営の未来
- 会議ファシリテーションのスキルと組合員組織会議での活用の仕方
- 『地上』をフル活用してみんなで 10 年後の未来を描こう！ etc..

4 全国ポリシーブック実践検討会、ポリシーブック作成・活用支援

ポリシーブックを基軸とした活動には全国各地の単位組織の取り組みが重要です。

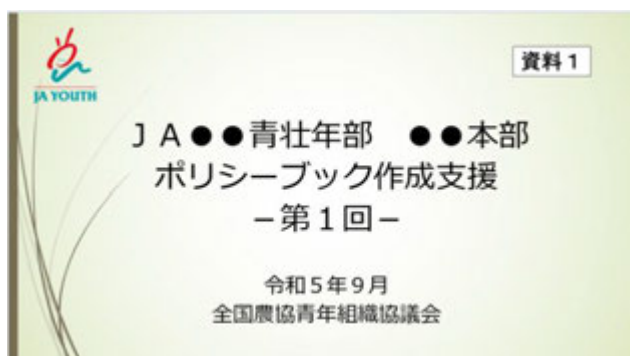
JA全青協では、ポリシーブックに取り組む意義の浸透や作成方法の指導、活用のやり方として活動計画への反映方法など、ポリシーブックの作成・活用にかかる支援を実施しています。

全国の単位組織の盟友にご参加いただける年 1 回の全国ポリシーブック実践検討会（9 月：東京開催）を実施するとともに、毎年全国で 6 つの単位組織へ直接伺い、作成・活用支援の研修会（全 2～3 回/単組）を開催しています！！

全国ポリシーブック研修会



単位組織へのポリシーブック作成・活用支援



- ・ポリシーブックに基づいたJA青年組織の意思反映
- ・外部団体との意見交換による組織活性化

1 JAグループ各団体との連携

JA全青協執行部を中心に、JA全国連の理事会・経営管理委員会などの基幹会議や、JA全中の本部委員会に参画し、JA全青協ポリシーブックの内容に基づいた青年組織の意思反映に努めています。

また、生産資材費の低減やスマート農業、環境調和型農業の実践に向けた取り組みについて、農業者ニーズの把握と事業への意思反映を目的として、JA全農と農業者団体（法人協会・4Hクラブ・JA全青協）にて構成する「**農業者団体連携プラットフォーム**」（**通年で実開催およびweb会議**）の取り組みにも参画しています。

「農業者団体連携プラットフォーム」の事例として、『農業機械の「共同購入」』に取り組んでおり、**これまで大型トラクター、中型トラクター、コンバインにおいて、生産者の購入価格で約2割の価格引き下げを実現**しています！！



「共同購入コンバイン」の取り組みについては右のQRコードからご覧いただけます！！
JA全農HP：農業機械の「共同購入」第3弾 コンバイン（4条刈50馬力クラス）の型式決定

2 外部団体との連携

JF全国漁青連とは、第一次産業の活性化に資する企画として、定期的な意見交換を実施するとともに、第一次産業同士での食の魅力を発信するコラボ動画作成も行っています！

また、世界の若手生産者団体との連携として、以前より交流のある**米国ファームビューロー連盟（AFBF）の青年組織**との日米の農業課題等についての意見交換（WEBで年2回程度）に加えて、令和6年5月には新たに**イタリア農業連盟の青年部「青年農業事業者協会（AGIA）」**との友好協定の締結を行いました！

今後も青年組織活動の活性化に向けて、外部団体との連携をすすめてまいります！

農業者団体連携プラットフォーム



イタリア農業連盟の青年部（AGIA）との友好協定の締結

JF全国漁青連との 第一次産業コラボ動画



動画はこちらから！！→
全青協YouTubeチャンネル



- ・ 全国のJA青年組織の優良事例の展開
- ・ JA全青協の運営方針等の協議

1 JA全国青年大会

青年農業者としての思いや、JA青年組織活動の優良事例（青年の主張・組織活動実績発表）の発表等を通じて、全国のJA青年部盟友の交流を図るとともに、JA青年組織活動の強化・発展を目指して、1954年の全青協結成時から毎年**JA全国青年大会**を開催しています。

令和7年度の第72回JA全国青年大会においては、ひとりでは難しいことも、全国盟友の英知と行動力をもってすれば、乗り越えられない壁はない！」という想いを込めて、大会スローガンを「咲き誇る 青年の情熱と協同の力～さあ、みんなでやってみよう！～」として、全国から約1,200名の盟友の参加のもと、盛大に開催されました！！



JAたまな青壮年部 玉名支部（熊本県）

令和7年度JA青年組織手づくり
看板全国コンクール 最優秀賞作品



JAにじ青年部（福岡県）

令和7年度JA青年組織PR動画コンテスト 最優秀賞作品
「農業はみんなでつくるもの。」



大会会場に約1,200名の盟友が集結



JA全青協会長による主催者挨拶



青年の主張



組織活動実績発表

- ・ 全国のJA青年組織の優良事例の展開
- ・ JA全青協の運営方針等の協議

2 各種会議等

(1) JA都道府県青年組織委員長・事務局合同会議 (年4回)

JA全青協執行部（会長・副会長2名・理事6名（全国6ブロックより1名ずつ））と全国の委員長・会長が一堂に会して、JA全青協の活動計画・JA全国青年大会の運営・ポリシーブックに基づく国会議員への全国一斉要請等について協議する会議を年4回開催しています。

(2) JA全青協作物別・課題別部会 (年4回) ・ポリシーブック委員会 (年9回)

JA全青協ポリシーブックの改訂にあたっては、都道府県青年組織の委員長・会長が集まって重点項目の政策提言について協議する「作物別・課題別部会(年4回)」での検討結果および、県域組織からの改訂意見を基に、各ブロックから選出されたポリシーブック委員が内容の改訂検討を行う「ポリシーブック委員会(年9回)」を実施しています。

(3) JA全国連への経営参画

JAグループ全国連の理事会・経営管理委員会等の基幹会議やJA全中の本部委員会等に出席し、積極的にポリシーブックに基づいた発言を行っています。

青年組織代表として役員・参与に就任するJAグループ全国連

全国農業協同組合中央会 理事	一般社団法人 家の光協会 理事
全国農業協同組合連合会 参与	株式会社 日本農業新聞 取締役
全国共済農業協同組合連合会 参与	全国厚生農業協同組合連合会 参与
J Aバンク中央本部委員会 委員	株式会社 農協観光 取締役
全国農業者農政運動組織連盟 幹事	

(4) JA全青協理事会 (年10回)

合同会議および部会作物別・課題別部会をはじめとしたJA全青協会議の運営や、JA全国連・外部団体との連携などを中心に、JA全青協執行部で協議する場を実開催・web開催を併用して年10回開催しています。



JA都道府県青年組織委員長・事務局合同会議



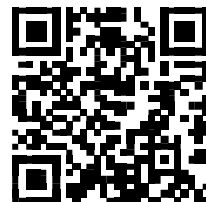
JA全青協作物別・課題別部会

・JA青年組織の活動発信

(1) JA全青協ホームページ

J A 青年組織の内外に対し、J A 青年組織についての基本的な解説や、各県青年組織の取り組み・ポリシーブックの紹介、J A 全青協としての活動報告等を情報発信するためのホームページを開設・運営しています。各組織が作成した動画等もアップできるよう、機能を見直し、令和6年3月にリニューアルしました。

絶賛公開中！



(2) JA全青協Facebook・Instagram

毎月のWebセミナーやJ A 全青協のトピックスなどの情報発信や、J A 全中広報部と連携して取り組む「農Tuber」動画など、多彩なコンテンツを投稿する公式Facebook・Instagramを開設しています。

その時々旬な情報を随時アップし、JA全青協やJA青年組織の認知度向上、活動の活性化に貢献できるよう運営しております。

Facebook



Instagram



是非フォローと「いいね」をお願いします！



男女問わず加入が可能で、新規就農の方も大歓迎です!!

JA青年組織綱領

我々JA青年組織は、日本農業の担い手としてJAをよりどころに地域農業の振興を図り、JA運動の先駆者として実践する自主的な組織である。

さらに、世界的視野から時代を的確に捉え、誇り高き青年の情熱と協同の力をもって、国民と豊かな食と環境の共有をめざすものである。

このため、JA青年組織の責務として、社会的・政治的自覚を高め、全国盟友の英知と行動力を結集し、次のことに取り組む。

1.われらは、農業を通じて環境・文化・教育の活動を行い、地域社会に貢献する。

JA青年組織は、農業の担い手として地域農業の振興を図るとともに、農業を通じて地域社会において環境・文化・教育の活動を行い、地域に根ざした社会貢献に取り組む。

1.われらは、国民との相互理解を図り、食と農の価値を高める責任ある政策提言を行う。

人間の「いのちと暮らし」の源である食と農の持つ価値を高め、実効性のある運動の展開を通じて、農業者の視点と生活者の視点を合わせ持った責任ある政策提言を行う。

1.われらは、自らがJAの事業運営に積極的に参画し、JA運動の先頭に立つ。

時代を捉え、将来を見据えたJAの発展のため、自らの組織であるJAの事業運営に主体的に参加するとともに、青年農業者の立場から常に新しいJA運動を探求し、実践する。

1.われらは、多くの出会いから生まれる新たな可能性を原動力に、自己を高める。

JA青年組織のネットワークを通じて営農技術の向上を進めるとともに、仲間との交流によって自らの新たな可能性を発見する場をつくり、相互研鑽を図る。

1.われらは、組織活動の実践により盟友の結束力を高め、あすの担い手を育成する。

JA青年組織の活動に参加することによって、個人では得られない達成感や感動を多くの盟友が実感できる機会をつくり、このような価値を次代に継承する人材を育成する。

(注釈)本綱領は、JA全青協設立の経過を踏まえて「鬼怒川5原則」「全国青年統一綱領」の理念を受け継ぎ、創立50周年を契機に現代的な表現に改めるとともに、今後目指すべきJA青年組織の方向性を新たに盛り込んだものである(平成17年3月10日制定)。

